

## スキルアップ講習会のご案内

### 「SU-6 着衣」

内容：弾性着衣（採寸・療養費申請）

開催日：2016年11月11日（金）

受付期間：2016年10月1日～10月13日

会場：横浜会場（MLAJ セミナールーム）

申込専用メールアドレス skillup06@mlaj.jp

### 「SU-7 所見」

内容：アセスメント

開催日：2016年11月12日（土）

受付期間：2016年10月1日～10月13日

会場：横浜会場（MLAJ セミナールーム）

申込専用メールアドレス skillup07@mlaj.jp

### 「SU-8 鑑別」

LT 更新クレジット対応講習会

内容：鑑別診断・症例検討

開催日：2016年11月13日（日）

受付期間：2016年10月1日～10月13日

会場：横浜会場（MLAJ セミナールーム）

備考：LT 更新クレジット 4 単位取得

申込専用メールアドレス skillup08@mlaj.jp

## 特別講習会のご案内

### 特別講習会

『放射線療法の理論と放射線性線維症に対するアプローチ』

講師：西村 哲夫 先生、MLAJ 認定教師

開催日：2016年9月9日（金）

受付期間：2016年8月1日～8月17日

会場：横浜会場（MLAJ セミナールーム）

申込専用メールアドレス tokubetsu03@mlaj.jp

### 特別講習会

LT 更新クレジット対応講習会

『循環器系からみた浮腫の鑑別とアプローチ』

講師：重松 宏 先生、MLAJ 認定教師

開催日：2016年12月10日（土）

受付期間：2016年11月1日～11月15日

会場：横浜会場（MLAJ セミナールーム）

備考：LT 更新クレジット 4 単位取得

申込専用メールアドレス tokubetsu05@mlaj.jp

### 特別講習会

LT 更新クレジット対応講習会

『足病変をきたす疾患とリンパ浮腫』

講師：松尾 汎 先生、MLAJ 認定教師

開催日：2016年12月11日（日）

受付期間：2016年11月1日～11月15日

会場：横浜会場（MLAJ セミナールーム）

備考：LT 更新クレジット 4 単位取得

申込専用メールアドレス tokubetsu06@mlaj.jp

## 医師対象 特別講習会のご案内

### 医師対象 特別講習会

『明日から診察に役立つリンパ浮腫診断法—基礎から医療連携まで—』

講師：小川 佳宏 先生、佐藤 佳代子 先生

開催日：2016年10月23日（日）

受付期間：2016年9月1日～9月15日

会場：横浜会場（MLAJ セミナールーム）

申込専用メールアドレス tokubetsu04@mlaj.jp

## 医療者向け公開セミナーのご案内

LT 更新クレジット対応講習会

医療者向け公開セミナー『リンパ浮腫の診断と治療—複合的理学療法とは—』

開催日：2017年1月22日（日）

受付期間：2016年11月26日～12月19日

会場：横浜会場（MLAJ セミナールーム）

備考：LT 更新クレジット 3 単位取得

申込専用メールアドレス seminar04@mlaj.jp

申し込みは、メール（※申込専用アドレスから）、申込専用ハガキ、または官製ハガキにてお申し込みください。

### お問い合わせ・資料請求等

日本医療リンパドレナージ協会 事務局  
045-325-9891（火～金 11:00～17:00）



MEMBER'S  
MAGAZINE

MEDICAL LYMPHDRAINAGE ASSOCIATION OF JAPAN



[今号のカバーフォト] 巻頭インタビュー

小川理事長 × 新井副理事長

平成 28 年度 保険適用について語る



日本医療リンパドレナージ協会

会報

Vol.33  
2016 summer

2016年  
夏号

## Contents

特集 小川理事長 × 新井副理事長

平成28年度 保険適用について語る

ニュースザッピング

1 2 3

カローラ先生 講習会レポート

4

オーストラリア 国際学会参加報告

5

会員！講習会参加レポート

6

講習会のご案内

7

特定非営利活動法人

日本医療リンパドレナージ協会

〒231-0033

神奈川県横浜市中区長者町 5-85

三共横浜ビル 4 階

TEL:045-325-9891 FAX:045-325-9892

http://www.mlaj.jp/



## 平成 28 年度 保険適用について語る



Q1. 平成 28 年度の保険収載において、悲願となる「リンパ浮腫複合的治療料」が新設されました。まずは、それぞれのご意見をお願いします。

小川：「リンパ浮腫複合的治療料」の新設については、今までは弾性着衣に関して保険が認められていましたが、今回はリンパドレナージを含め、リンパ浮腫の治療が認められたことは、非常に大きかったと思います。

私自身は、医者になってから 28 年、開業してからは 16 年、協会との付き合いは 14 年になります。それだけ長い間、お互い切磋琢磨して協力し合いながら、ここまでリンパ浮腫の治療に、特に複合的理学療法の活動についてここまで来たわけですが、やっと実を結んだというのが、正直な感想です。特に「リンパドレナージ」というものが治療として認められたことは、非常に大きな進展だと思えます。今まで、リンパ浮腫の患者さんを診てきた医者としては、非常にありがたいことだと思えます。

新井：保険適用に向けた活動を十年来やってきましたが、どうか一つ形になったと思います。更に、今回の保険適用をうけて、日本におけるリンパ浮腫の治療技術をより発展させるため『日本リンパ浮腫治療学会』が立ち上がり、それに付随した様々なうねりがおきていることも、非常に良いことだと思います。

保険自体の点数はまだまだ少ないということではありますが、まずは治療環境が整ったことと、セラピストとしての活動が国に認められ保険収載という対価がついたということが、非常に大きなことです。当初、協会が目指していたものが、ようやく形になったということに非常に大きな成果を感じています。

Q2. リンパ浮腫の治療法の保険収載にまでたどり着きましたが、その内容はまだまだ十分ではない部分もあると思います。そちらについては、いかがお考えでしょうか。

小川：同じ「リンパ浮腫」という病名が付いているにもかかわらず、原発性について認められていないことです。そして今回、見逃されがちなのですが、「複合的治療料」は「リンパ浮腫指導管理料」を算定できる疾患に対する前提のため、乳がんのリンパ節郭清後のリンパ浮腫、子宮がん・卵巣がん・前立腺がんのリンパ浮腫が主な対象となっています。その他のがん由来のリンパ浮腫でも点数がつかないものもあります。同じリンパ浮腫なのになぜという疑問もあります。

新井：「リンパ浮腫指導管理料」に付随する形で「複合的治療料」の保険を認めるという流れのため、施設基準を満たす施設とそうでない施設で差が出てくるというジレンマもあります。こちらに関しては厚労省への陳情の際に「もう少し施設基準に対する条件を現状に

## 会員！ 新企画 講習会参加 レポート

会員の方による講習会の参加レポートが新たにスタートしました！今回は『医師対象特別講習会』に参加された熊谷 暁美さんにレポートをお願いしました。

小川理事長による初の「医師向け」の講習会で、明日から診療を行うことができることを目的とした特別な講習会。全国から多くの医師とその同伴の医療従事者の方々が参加されました。

開催日：2016年4月24日

当院では緩和ケアチームの勉強会の一環として年間に2回程、地域の多職種も含めたリンパ浮腫勉強会を実施しています。昨年末にこの勉強会に参加した医師がリンパ浮腫に関心を示し、協会主催の『医師対象特別講習会』を受講したいと希望されたため、私も同行参加しました。

今回の講習会では、まず午前の『リンパ浮腫の病期と診断』講義で小川理事長よりリンパ管系の基礎知識から病期、診断、診療のコツまで詳細にわたる説明がされました。続いて、佳代子先生より『複合的理学療法』の進行期に応じた対応、医療用のリンパドレナージと圧迫療法について紹介されました。

午後からは、実際にエコーを使って『リンパ浮腫患肢の視診・触診の解説やデモンストレーション』があり、その後、参加した医師が実際にリンパ浮腫の患者様に対する触診やエコー操作のしかたを実習しました。実習時に先生方から、「来週からさっそくエコーしてみよう」という声もあがりました。



『受講者による触診とエコーの実習』

MLAJ を修了した医療リンパドレナージセラピストが全国に 1900 人以上いるのに対し、リンパ浮腫の診断をしてくださる（我々セラピストの思いを理解してくださる）医師がどれだけいるのか興味がありましたが、これだけ高い関心をもってくださる医師が、開催を重ねるにつれ増えていくことを願ってやみません。リンパ浮腫に対して理解ある医師の存在がどれだけ心強いのか、全国のセラピストの悩みも今回のような医師対象の講習会に参加されることで幾分緩和されるのではないだろうかと思いました。医師から医師に直接伝えていただく講習会の影響は大きいと感じつつ、普段の横浜セミナールームと違う雰囲気包まれ、忘れられない一日となりました。

岩手に戻り、同伴した医師からは「リンパ浮腫の診断や治療がエコーなどを用いて体系的に説明してもらえた点は十分納得がいくものであり、民間療法とは明確に区別がつくものと考え、広めていく価値があると感じた。日本で保険適用になったということは、リンパ浮腫だけではなく様々な分野での医療の価値観が変わろうとしているのかもしれない。ただ、それらが普及するには沢山の労力と理解が必要だとも感じた。」というコメントがありました。

今後は地域におけるリンパ浮腫の啓発活動を継続するとともに、1 人でも多くリンパ浮腫に理解ある医師への関わりを繋げていければと思います。企画してくださった MLAJ の皆様に感謝申し上げます。



熊谷 暁美さん  
岩手県立磐井病院  
緩和ケア病棟

## オーストラリア 国際学会参加報告 「Asia Pacific Lymphology Conference」

2016年5月26～28日、オーストラリアのダーウィン市にて『第6回ILF（国際リンパ浮腫フレームワーク）学術大会』が開催されました。

今回はオーストラリアンリンパ学協会との共催で、ILFとして初めてのアジア太平洋地区での学術大会となり、世界各国から350名以上の参加者がダーウィンに集まりました。全部で150件以上の発表があり、今回もILF学会への関心が高かったことが伺えます。

今大会にはいくつかの見どころがありましたが、その中の一つに、アジア太平洋地区の5ヶ国（中国、シンガポール、韓国、日本、インドネシア）より発表者を招き、全体会議でそれぞれの国のリンパ浮腫診療の現状についての発表する場がありました。その会議で、当協会はアジア太平洋地区から日本の代表として、「日本の診療および保険適用」についてご報告してまいりました。

また、ベルギーのベルグラード先生によるICGリンパ管造影法のリアルタイムデモ特別講演、MLDについてのパネルディスカッションがありました。ベルグラード先生の講演では、健常者にICGを注入し、リンパ管分布とリンパ流、そしてMLDによってリンパ液がどのように運搬されるかについて映像を交えながら説明がありました。MLDについてのパネルディスカッションでは、6名のパネラーによりMLDの役割や必要性について議論がなされ、最新の見解として今日でも複合的理学療法の重要な要素であることが結論付けられました。昨今、高いエビデンス（特に無作為化臨床試験【RCT】）が求められていますが、リンパ浮腫患者の個人差は大きく、RCTの結果をそのまま応用できないケースも少なくなく、RCTは貴重な参考にはなるものの、必ずしもそのまま臨調現場に反映できるとは限らないとのことでした。

その他、日本からも複数の発表がありましたが、長崎大学の研究発表が口頭発表の部で入賞、後藤学園の研究発表がポスター部門で最優秀の『ベストポスター賞』を受賞しました。

今大会で様々な分野に関して学び得たことは多かったです。日本では、治療環境を一層整えていくという課題が残りがちながらも、世界トップレベルの高い診療の水準を保っていることを改めて認識することができました。今後国内外で研究により得た新しい知見を当協会からも発信してまいりたいと思います。

（文・写真：国際部 パトリック・ワグナー）



アジア太平洋地区における5ヶ国の代表者による発表



ポスター会場

見合ったものとして欲しい」という要望を提出して、「リンパ浮腫指導管理料を50回以上申請している施設」だけでなく「連携している施設」も認められることにはなったのですが、実際はまだまだ多くの課題が残っております。

Q3. 当協会の講習会を修了したセラピストについては、今回の保険収載によって、どういった好影響がありますか。

小川：私が開業したところ、そしてこの協会が立ち上がったところというのは、セラピストの認知度が非常に低かったですよね。それが、平成20年の「リンパ浮腫指導管理料」が算定できるようになって非常に認知度が高まってきた、今回も更に高まってくるかと思いません。保険適用と併せてセラピストの認知度が高まることで、より活動しやすくなると思います。また、最近の傾向として、医師で研修を受ける方が増えているということがあります。医師がリンパ浮腫や複合的療法を認識すると、普及が早まるという期待がありますね。医師を通して、病院内の周りの医療者たちにも広まっていくという点で、もっとよくなっていくと思います。

また、保険収載によってリンパ浮腫をとりあげる医療機関が増えることで、患者さんを診察できる医療機関が増え、そこで受診することで重症化を防ぐことができるというメリットがあると思います。

Q4. 「リンパ浮腫指導管理料」において、実施職種の追加（作業療法士の追加）がありましたか。

新井：今回、「複合的治療料」の実務職種として作業療法士が認められたことにより、「リンパ浮腫指導管理料」においても認められたことは必然的な流れであると思います。もちろん、当協会の講習会の受講対象者には作業療法士も含まれておりますので、今回の追加についても良い流れかと思えます。

Q5. 保険適用の今後の課題と、当協会のミッ

ションについて教えてください。



小川：保険の課題としては、「重症であったら何回」とか「軽症であったら何回」、今回の場合でいえば「軽症は6ヶ月に一回」というような点数の付け方なのですが、6ヶ月後に診療したら重症になっている可能性もあります。患者さん自身が病状について知識があればいいのですが、保険の付け方だけで医者が指導してしまうと、6ヶ月は来なくてもいいという話になってしまうこともあります。その結果、悪くなってしまいうということもあります。せっかく保険が使えるということになったのであれば、やはり「早めに発見して、早めに治療する」、「重症の人を軽くして、軽症の人は維持する」ということが重要です。完治するところまで治療できなくても、病気とうまく付き合える状態まで持っていく、そのためには、やはり早めに見つけて、早めに治療するというのがあってしかるべきです。そういったところに保険を使っていくべきかと思えます。私の考えがすべて正しいと思いませんけど同じような考えをもってもらい、やはり早期に発見できる医師を一人でも多く作りたいと思います。

新井：当協会のミッションは、リンパ浮腫の患者さんの治療環境を整えるため、セラピストを育成しているということが前提にありますので、今回、保険収載されたことによって、セラピストが仕事として活動できる場が確保されること、それに対価が付く事ということ

は非常に大きかったと思います。

今後は、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、あん摩マッサージ指圧師といった職能団体が中心となり、少しでも多くの保険医療機関にてリンパ浮腫複合的治療が行われるよう促していく必要があります。また、あん摩マッサージ指圧師の教科書には、リンパ浮腫複合的理学療法について記載されており、学生時代から興味を持つ学生が多く、全ての職種の教科書にリンパ浮腫複合的治療を取りあげることで、より早い段階からリンパ浮腫に興味をもってもらえる仕組み作りも重要だと思っています。

小川：今回の保険適用で、教科書もみんな変わってきますよ。学生時代に勉強したら、要件がだいぶ変わってきますよね。今回の保険適用をきっかけに、リンパドレナージや、複合的理学療法を中心とした治療法が広がっていくと思います。協会としても、さらに質の

高いセラピストを養成し、継続的に支援していきたいと思っています。



新井恒紀 副理事長

新井：そういった意味でも、今年は「リンパ浮腫の治療技術が保険適用になった改元元年」と言えるかと思います。保険に関して課題はありますが、今後もより良い形を目指して、皆様のお力添えのもと尽力していきたいと思っています。

<取材日：2016年5月8日>

WORLD

ニュース  
ザッピング

## 『日本リンパ浮腫治療学会』設立！

リンパ浮腫の病態やリンパ浮腫医療における研究促進を図り、患者に提供する医療の水準の向上に寄与するために、日本リンパ浮腫治療学会が設立されました。

新設学会の代表理事には、日本脈管学会理事長およびリンパ浮腫療法士認定機構理事長としてリンパ浮腫医療に多大な貢献をされる重松 宏先生が就任されました。

また、当協会の小川 佳宏理事長と新井 恒紀副理事長が日本リンパ浮腫治療学会の理事として、当協会の佐藤 佳代子副理事長、そして国際部の Patrick Wagner が評議員に就任しました。

日本の医療を担う幅広い分野でご活躍される医師や研究者、多職種医療関係者、学生をはじめ多くの支援者の皆様方がリンパ浮腫医療を学び合う場となります。

また、『第1回 日本リンパ浮腫治療学会学術総会』が2016年9月に開催されます。

### ◆ 第1回 日本リンパ浮腫治療学会 学術総会

会期：2016年9月24日（土）

会場：東京医科大学病院 本館6階 臨床第1講堂（東京都新宿区）

会長：国際医療福祉大学臨床医学研究センター教授 重松 宏

詳しくは、「リンパ浮腫治療学会」公式ホームページ <http://jslt.site/>

## カロラ先生 講習会レポート

カロラ先生  
特別講習会

文：国際部 パトリック・ワグナー

### ドイツ・フェルディ学校の現役教師が来日！

2016年3月5日（土）および6日（日）にフェルディ学校認定教師の特別講習会が開催されました。

講師は、約20年間のキャリアを積まれてきたカロラ・キルシュシュタイン＝シュポング先生でした。このような形での開催は当協会設立以来初めての試みでしたが、おかげさまで定員をはるかに上回る応募をいただきました。講習会テーマは、ご家族向けの「小児におけるリンパ浮腫治療」と、セラピスト向けの「下肢リンパ浮腫に対する圧迫療法と理学療法」でした。

### 小児患者とご家族向けのセミナー

ご家族向けの講習会では、特にお子さんやご家族が日常に取り入れやすい治療法の紹介が中心でした。子供は、治療中にじっとするのがなかなか難しい時もあるため、楽しく遊びながらリンパの流れを促進させることが大事であるとのアドバイスがありました。風船を膨らましたり、羽に糸を結び、強く息を吐きながら飛ばしたりすることは立派な呼吸療法になるとのことでした。

活気に溢れたお子さんの参加のおかげで普段静かなセミナールームには笑い声が隔々まで響き渡っていて当協会のスタッフも楽しい時間を過ごさせていただきました。

### 下肢リンパ浮腫に対する圧迫療法と理学療法

翌日は、当協会の中級修了者向けの特別講習会でした。

リンパ浮腫以外に関節の位置異常や関節全置換術により症状が現れている患者さんに対するアプローチ法についてご教授いただきました。

カロラ先生は理学療法士の立場から、所見の取り方、バンデージを巻く時のポイント、運動療法の指導等、盛り沢山の講義に加え、グループワーク、難渋している症例についての質疑応答もありました。



理学療法での所見の取り方を説明

今回は、複合的理学療法の中でもバンデージに焦点が置かれていましたが、その他にマニュアルセラピーの手技やPNF治療法のテクニックの実習が行われました。

楽しい時間はいつもあっという間に過ぎてしまいますが、カロラ先生もMLAJ受講生の皆さんとの講義を大いに満喫されて、またの来日を楽しみにされていました。



バンデージの巻き方を指導